

なぜ日本は他の国と比べて臓器提供者が少ないのか

3年1組13番 川越玲奈

3年2組26番 宮下璃子

3年4組9番 片岡陽菜

keyword:「臓器移植の現状」「ドナーカード」「意思表示方法」
「提供できる臓器」「脳死と心停止」

1.はじめに

研究動機

臓器移植とは、重い病気や事故などにより臓器の機能が低下した人に、他者の健康な臓器と取り替えて機能を回復させる医療である。臓器提供の方法は二通りあり、脳死と心停止に分かれている。脳死とは、脳幹を含む、脳全体の機能が失われた状態です。回復する可能性は全く元に戻ることはない。薬剤や人工呼吸器等によってしばらくは心臓を動かし続けることはできるが、やがて心臓も停止する。(心停止までに、長時間を要する例も報告されている。植物状態は、脳幹の機能が残っていて、自ら呼吸できることが多く、回復する可能性もある。心停止後の臓器提供では、心臓が止まった死後、手術室に向かい、臓器の摘出手術を行う。一定時間、血液の流れが止まるため、速やかな対応が必要である。提供できる臓器は、腎臓、脾臓、眼球である。必要な体制が整備されていることが前提となるが、手術室がある病院であれば提供が可能である。脳死下の臓器提供の場合は、血圧、脈拍、体温、尿量など安定した状態で臓器摘出手術を行い、摘出直前まで血液の流れがあることから、心臓・肺・肝臓(分割可)・腎臓・脾臓・小腸・眼球の7つの臓器を最大11人に提供することができる。第三者の善意による臓器の提供がなければ成り立たない。日本で臓器の移植を希望して待機している方は、およそ15,000人である。それに対して移植を受けられる方は、年間およそ400人である。

日本では臓器提供者が少なく100万人あたりのドナー(提供する側)数で考えたとき、日本はアメリカの1/62、韓国の1/15で他国に比べてとても少ない。臓器移植について調べていくうちに、臓器移植にどれだけの方が携わっているのか、提供された方や提供した方のご家族や臓器移植に携わっている医師の方々の話、地域や社会での臓器提供者を増やす取り組みについて知りたいことがたくさん出てきた。日本は他の国に比べて臓器移植のドナー、レシピエント(提供される側)の両方が少ないこと、臓器移植についての認知が少なくそれと同時に臓器提供の意思表示をしている人が少ないこと、海外では臓器移植は一般的な医療として定着しているが日本では臓器移植に関するガイドラインが厳しくそれと同時に日本で臓器移植を受けられる病院や施設が少ないことなど臓器移植についての課題点や問題点が多くあることを知り、私達は意思表示をするきっかけで救われる命があると考え、高校生としての影響力を使い、多くの人に意思表示してもらいたいと考え探究を進めた。

2.序論

目的

これらのことを研究していき、問題としてあげられる認知の低さ、臓器移植についての情報や知識の少なさ、ドナーの意思表示の量の少なさなど難しいことも多いが自分たちのできることから研究し、問題を解決していきたいと考えた。

先行研究

日本では臓器移植の実施数が少ない理由として、有馬善一は次のように3つ論じている。

「日本において移植の前提条件となる意思表示カード(ドナーカード)を持っている人が少ないということである。2006年の内閣府調査によれば8%にとどまる。また、2007年3月に日本臓器移植ネットワークが始めた臓器提供意思のインターネット登録も3ヶ月で6753件であり、パソコ

ン普及率やカード所持率から試算した初年度の目標 10 万件を大きく割り込むのは必至の状況である。」(有馬善一『脳死と臓器移植について我々は何を問うべきか』経営情報研究 2007年)

「日本の臓器移植法が世界でも例を見ないと言われるほど、移植に厳しい制限をつけていることである。」(同書)

「臓器移植実施施設が限定されていることである。現在では臓器摘出を行う施設は 300 施設を越えており、当初の 3 倍ほどに増加したが、それでも臓器摘出と移植手術を同じ施設で行っているアメリカと比べると相当数の上で開きがある。」(同書)

有馬善一が取ったアンケート『脳死を「人の死」と認めるか、心臓が停止した場合に限るべきか?』『臓器移植法の成立を急ぐべきか?』『臓器提供意思カードを持っているか?』結果は以下である。

脳死を「人の死」と認めるか、心臓が停止した場合に限るべきか?			
97年5月24・25日(臓器移植法成立前)		99年5月22・23日(脳死臓器移植2例目直後)	
脳死を認める	40%	脳死を認める	52%
心臓停止に限るべきだ	48%	心臓停止に限るべきだ	30%
その他・答えない	12%	その他・答えない	18%

臓器移植法の成立を急ぐべきか?		臓器提供意思カードをもっているか?	
97年5月24・25日(臓器移植法成立前)		99年5月22・23日(脳死臓器移植2例目直後)	
できるだけ早く成立すべき	44%	持っている	7%
急ぐべきでない	44%	これからもちたい	37%
その他・答えない	12%	その気持ちはない	42%
		その他・答えない	14%

これらのことから、日本では、法改正後も脳死後に臓器を提供する場合に限定して脳死は人の死とされるが、世界のほとんどの国では、臓器提供とは無関係に脳死は人の死として認められていることや臓器移植に関するガイドラインの厳しさが大きく影響していることが分かる。

そして、カードを所持している人が非常に少ないという課題は提供数の絶対的不足、ドナー不足という問題にも繋がっている。それについて岩波祐子は次のように述べている。

臓器移植には、生体ドナーから提供を受ける場合と死体(脳死体を含む)ドナーから提供を受ける場合とがある。我が国の現行法制下では、脳死下移植と心停止下移植は、手続き上、区分されている。しかし、いずれも基本的には臨床的脳死を経て提供に至るものであり、脳死下の場合には人工呼吸器を装着して心臓が拍動したまま、心停止下の場合には人工呼吸器を外して心拍が停止するのを待って行われるものである。脳死過程を経ずにいわば自然に心停止した場合に提供できるのは角膜等に限られている。

そして潜在的ドナーである脳死者の発生数であるが、我が国については厚生労働省は年間4,600人程度と推計している。脳死に陥る原因は、脳疾患、不慮の事故が多くを占める。つまり、脳死に陥る原因は、先天的で不可避というよりはむしろ多くは予防可能なものであり、成人病

の予防対策や事故予防対策を徹底することにより、むしろ減少することが見込まれるものである。

ドナー不足の解決策としては、意思表示等の臓器摘出のための要件を変更するという法制面における対応策と、医療機関を支援したり潜在的ドナーを提供に結び付けるよう積極的に働きかけたりするという運用面における対応策が存在し、各国で様々な取組がなされている。(岩波祐子「臓器移植の現在の状況と今後の課題」2009年11月)

上記より法律が制定されたが認知度があまりなく、ドナー数やカードを所持している人が少ないことがわかった。私達は、それを重大な課題だと考えて本校の生徒に臓器提供の内容を踏まえて意思表示を考えてもらうことにした。

3.本論

私達は、より多くの人に臓器移植について知ってもらうためにポスターを制作した。多くの人の目に入りやすいように、昇降口と廊下に掲示した。日本における臓器移植の現状について、意思表示の方法、提供できる臓器について書いた。その後、ポスターについて3年生対象にアンケートを取った。ポスターを見て意思表示しようと思いましたか?という問いでは、15.7パーセントの人が「はい」、35.7パーセントの人が「いいえ」、48.7パーセントの人が考えていると答えた。この結果からポスターを作ることによって臓器移植について考えてくれる人が増えたことがわかった。また、臓器移植について興味ある問題を募集し、日本臓器移植ネットワークに解答してもらった。その後、その解答をもとにより多くの人に知ってもらうためQ&Aポスターを追加制作した。内容としては臓器移植にはどのくらいのお金がかかるのか。本人の代わりに家族が臓器移植に許可ができるのか。など十問をまとめ掲載した。また、手に取って読んでもらうためにパンフレットも制作した。一週間後に再びアンケートを取った。パンフレット、ポスターを見て意思表示をしましたか?という問いでは、5.4パーセントの人が「意思表示をした」、94.6パーセントの人が「意思表示をしていない」と答えた。そのアンケート結果から、一番最初に取ったアンケートよりは臓器移植について理解した人が増えたが、意思表示には至らなかった。

4.結論

結果として、多くの人が臓器移植について知ったが、意思表示する人は少なかった。理由としては、臓器移植は自分にとって遠い話、関係ないと思う人が多い。死亡について考えたくない人が多いこと。これらの理由から、日本の死亡教育の欠如、また政府が臓器移植問題に向ってないと考える。意思表示は本人次第であるから、私達は多くの人に臓器移植について知ってもらうことが課題である。また、多くの人が臓器移植は自分にとって遠い話、関係ない、このような考え方を減らしていくために、SNSを利用し、臓器移植について発信し、知識を広げていきたい。私たちの行動で、意思表示してくれる人を増やせるようにしていきたい。

5.引用

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2009pdf/20091101036.pdf

臓器移植の現状と今後の課題(1) 岩波祐子

<https://core.ac.uk/download/pdf/230295611.pdf>

脳死と臓器移植について我々は何を問うべきか 有馬善一